

奈良市 手をつなぐ親の会だより	NO 376	令和2年2月7日(金)
	発行	奈良市手をつなぐ親の会
	会長	小西 英玄
	所在地	〒631-0801 奈良市左京5-3-1 奈良市総合福祉センター内
	Tel 0742-71-0770	http://naraoyanokai.info/

奈良が一躍有名になりました。徳勝龍関優勝おめでとうございます。

奈良が日本一になったのがもう一つあります。それは障害者雇用率が再び日本一に返り咲きました。大企業が少ない奈良ですが、障害者雇用の先進地です。永年の就労支援の成果が日本一を呼び込んだのだと感謝申し上げます。

しかし、施設建設への反対がワースト2位。1位は大阪 10位滋賀県 京都府 15位兵庫県と15位までに近畿圏5つの府県が入っていました。(2014/10~2019/9の5年間の資料)

奈良で8件の報告がありました。反対運動による障害者施設の建設中止や場所の変更、GHなど入居施設が最多で、通所施設、放課後デイサービスの順となっています。障害の種別では、知的障害者、精神障害者が7割をしめていました。反対の理由は、障害者を危険視、住環境の悪化、説明が不十分となっています。「奈良の福祉」光と影とでもいえる現状。わかりやすい現象です。

障害者雇用は収益法人が制度として取り組んで頂けます。一方地域生活は、自治会や行政の調整機能もありますが住民個々との対応になります。「福祉は障害者ばかり優遇している」と捉えられがちのようです。決してそうでは無いはずなのですが……。支援が必要な人達の生活を基準に考えると、全ての人が生活し易い世の中になるはずですが、現実はなかなかそうは考えてもらえません。

結論として、障害福祉啓発、障害者理解が不十分、まだ私たちの啓発活動が不十分だという事です。

認知症についての第一人者である 長谷川和夫ドクターの「認知症になってやっと認知症がわかった。」「認知症の人も同じ一人の人間であり、この世にただ一人しかいない唯一無二で尊い存在ということです。」の言葉から、支援を必要とする人を「自己責任主義」だと言う世の中を変えていかなければ、いつまでも「あっち側の人」で終わる人生になってしまいます。「あちら側の人」は「まともに話が出来ない。」とか、「何を言っても分からない。」と言われたりします。そうした辛い体験がもたらす苦痛や悲しみは、認知症であろうとなかろうと同じです。何かを決めるときに、「私たちを抜きに物事を決めないで欲しい。」「私たちを置いてきぼりにしないでほしい。」と思います。認知症の人と接するとき、まず相手の言う事を聴いてほしい。「こうしましょうね。」と自分からどんどん話を進めてしまう人がいます。そうすると、認知症の人は混乱して自分の思っていたことが言えなくなってしまいます。できれば「今日は何をしたいですか?」と聞いてほしいです。それからその人が話すまで待つてほしい。「時間がかかるので無理」と思うかもしれませんが「聴く」というのは「待つ」ということだと思のです。

これは、認知症の専門医が自ら認知症になって始めて認知症の人のことがよく分かったというお話です。

「認知症」を「知的障がい者」に置き換えたら、我が子からのメッセージに聞こえるのでは?

私たちの子どもの想いをこの様に表現するのは、私たち親の仕事かもしれません。

「障害者施設賛成日本一」・「障がい者地域生活日本一」になれる奈良を目指して。